

## 「年報」発刊によせて

学長 齋藤 秀 晃

平成 11 年 5 月 8 日、本学は 5 回目の「創立記念日」を迎え、この間、「看護学科」(3 回) 289 名、「専攻科」(2 回) 118 名、合計 407 名の卒業生・修了生を社会に送り出した。

世間一般では、“5”または“10”という数字を一応の区切りとすることが多い。曰く「5 か年計画」「10 周年記念」等々である。

恰も本年 2 月 17 日、県知事から、本学を“西暦 2002 (平成 14) 年に 4 年制大学へ移行する”方針が示され、まさに“5 年一区切り”の感をさらに深めた次第である。

現在、わが国の医療看護系高等教育界は、日々目まぐるしく進歩する医療に対応でき得る「高度な知識と技能を持った看護技術者」を求める社会の要望に応えるために、3 年制の短期大学から、4 年制の大学へ移行する方向にある。

本県においても平成 12 年には、新潟大学医療技術短期大学部が 4 年制に移行し、私立の福祉医療系大学も開学する予定である。

4 年制大学に移行して、より高度な教育・研究を志向する本学にとっても、“互いに研鑽し合うよきライバルを得た”という意味を含めて、本県の医療看護の水準を向上させる為には心強いことと考えている。

本大学教員の研究業績も、年を経るごとに質・量ともに充実し、公立の教育・研究機関として、県下看護界のセンター的役割を目指す、本学の面目躍如といったところである。

幸い、昨年度(平成 11 年 2 月)の「看護婦」「保健婦」「助産婦」国家試験においては、本学の現役生・既卒生の受験者全員が合格するという、本学開学以来の悲願が適い、教員諸兄の熱意と受験生の頑張りに敬意を表する次第である。

願わくば近い将来において、これら本学の卒業生の中からも、本誌に研究業績を発表することのできる人材が育ってくれるよう熱望するものである。

看護教育の歴史と伝統の香り高い、この高田の地に位置する本学が、益々その輝きを増し、存在の意義を高めるよう、教職員、設置者はもとより、学生諸君とも力を合わせて、これからの看護学の発展に寄与したいものと考えている。